2009年（平成21年）7月15日発行
薬局新聞　（第三種郵便物認可）

風評被害防止含む通知を評価

アガリクス・ブラゼイ協議会

竹口会長「過去と決別し新たなステージへ」

アガリクス・ブラゼイ協議会は7月8日、都内で臨時総会を開催し、同月3日に出されたアガリクス（カワリハラタケ）を含む製品に関する厚生労働省の通知に対する同会の見解を示した。厚労省通知では、アガリクスの安全性について従前とおりに必要な情報収集を行うことを各都道府県に求める内容となったが、「いわゆる風評被害等が生じることのないようにすることも含め、引き続き正確な情報等の提供に努めるようにお願いする」との文言も含まれた。これに対し、同協議会の竹口雅之会長（写真）は、「本日を持ってアガリクスの安全性に関する宣言ができた」と評価。今後は、より国民の健康に寄与する団体としての取組みに力を入れていきたいとの考えを示した。

アガリクス（カワリハラタケ）の風評被害は、06年2月に厚労省が通知でアガリクス含有食品3製品に関する安全性について疑義を指摘したことに始まる。この3製品中、実際に安全性に異常が見られたのはキリンウェルフーズが発売していた「キリン細胞壁破砕アガリクス顆粒」1製品のみだったが、協議会では「アガリクスによる明確な健康被害は報告されていなかったにも関わらず全ての試験結果が出揃う前に発表されたことで、アガリクス全体の安全性に対する信頼が著しく毀損された」と風評被害の大きさを強調してきた。実際に矢野経済研究所の推計では05年に315億円ほどあった市場規模が07年には70億円に縮小している。

今回開催された臨時総会では、厚労省新開発食品保健対策室の尾崎俊夫室長が、3日に出された厚労省通知に至るまでの経緯を説明するとともに、通知によって06年から続いてきた一連のアガリクス問題に一つの区切りがついたとの認識を示した。さらに、協議会の取組みについて「第3者認証や消費者向けPRなど先進的な取組みをしてきたことを個人的に評価したい」と話し、同会の今後の自主的な取り組みにも期待を寄せた。

竹口会長は、尾崎室長の話を受けて「風評被害の広がりを防ぐ通知がなされたこととともに、協議会の取組みが評価された。協議会としてこれまで風評被害と闘ってきたが、今日から過去と決別できる」と強調。今後、風評被害による業界全体のダメージの回復を目指すとともに、協議会としてのクオリティを国民の健康に貢献できるレベルにまで高めていきたいとした。